



## 野球殿堂入り表彰式

館長 庄司正信



左から三浦大輔監督、谷繁元信氏、榊原定征理事長、黒田博樹氏、新井貴浩監督、米井林太郎氏、森健次郎審判長

競技者表彰・プレーヤー表彰で野球殿堂入りをされた谷繁元信さん、黒田博樹さん、特別表彰で殿堂入りされた故・谷村友一さんの表彰式を、7月23日にエスコンフィールド HOKKAIDO で行われたオールスターゲーム第1戦の試合開始前に行いました。

谷繁さんは1988年に大洋（現横浜 DeNA）に入団し、98年には横浜の38年ぶりの日本一に貢献されました。2002年に中日へ移籍後、07年には53年ぶりとなる日本一へとチームを導きました。13年には通算2000本安打を達成。捕手としては歴代1位となる2963試合に出場されています。

黒田さんは1996年に広島に入団。エースとしてチームを牽引し、最多勝、最優秀防御率のタイトルを獲得されました。2008年にドジャースへ移籍、12年からは Yankees でプレー。15年に広島に復帰すると、翌年には史上2人目となる日米通算200勝を達成されました。

谷村さんは同志社大学で主将を務め、1952年に都市対抗野球大会に京都クラブの二塁手として出場されました。その後、高校野球、大学野球、社会人野球の審判員として活躍され、59年にセントラル・リーグの審判員となり、通算3026試合に出場されました。

セ・リーグ、パ・リーグ両軍の選手・監督・コーチがベンチ前に整列し、場内アナウンスで谷繁さん、黒田さん、谷村さんの孫の米井林太郎さんが大型ビジョンでの映像紹介とともに登場されました。始めに、野球殿堂博物館・榊原定征理事長より記念のレリーフのレプリカが各々に贈られました。

次に、谷繁さんには横浜でバッテリーを組んだ横浜 DeNA・三浦大輔監督から、黒田さんには盟友の広島・新井貴浩監督から、米井さんには森健次郎審判長から花束の贈呈が行われました。記念撮影に続いての挨拶では、谷繁さんより「今後も微力ながら野球界の発展に努めてまいります」との決意が語られました。黒田さんからは「現役時代最後の登板をした北海道で表彰式ができてとてもうれしく思っております」と開催地への思いが述べられました。米井さんは「審判は天職だった」と言っていた御祖父さんの言葉を紹介されました。そして最後に改めて、満員の客席から受賞されたお三方に大きな拍手が送られました。

エスコンフィールド HOKKAIDO では初めての殿堂入り表彰式でしたが、お三方のスピーチの途中でも場内から温かい拍手が送られるなど、素晴らしい表彰式となりました。谷繁さん、黒田さん、谷村さん、この度は野球殿堂入り誠にありがとうございます。

## 殿堂入りの人々を語る(76)

## 野球人として歩み続けて出会った天職“審判”

米井林太郎 (2024年野球殿堂入り 谷村友一氏孫)



谷村友一氏

私の祖父、谷村友一は生涯を“野球人”として過ごしてきた。

幼い頃から社会人初めの頃までは“選手”として。その後、“審判”という天職と出会いプロの世界で長く活動してきた。引退をしてからも野球から離れることはなく今度は野球というスポーツの“ファン”として春と夏になると連日、自宅の近くにある甲子園球場へ足を運んで高校野球の試合を観に行っていた。自宅ではスポーツ新聞や野球雑誌を読み、テレビで野球を見ていた。より細かくメジャーリーグの情報を知るためにパソコンを使えるように当時、高校生だった私がインターネットの設置やホームページの見方をサポートしに行ったこともあった。誰よりも野球とともに過ごした人生だった。

私も幼い頃から野球をしていた。祖父にはよく野球場へ連れて行ってもらったり、公園でキャッチボールをしたり祖父との思い出は野球関連のことが多い。私は祖父の家に行くことや祖父と会うことが何よりの楽しみであった。祖父も私は野球が大好きであることは良く知っていた。しかし、祖父は私の前で“野球人”谷村友一の一面を自ら出すことは、ほとんどなかった。私が聞いたことには答えてくれたが自分から“選手”の時や“審判”の過去や思い出を語っている姿は印象にない。祖父のことを考えていた時にあの言葉が浮かんできた。

それは今年1月の2024年野球殿堂入り通知式でのこと。同志社大学野球部OBの相澤孝行様のスピーチにあった「目立たないのが良い審判、ファンが試合後に振り返った時に審判の話がないのが良いこと」という言葉だ。ぶれないで安定したジャッジを試合開始から終了まで出来た証だということだ。私にとって祖父は野球人として輝かしいキャリアだが、私にその印象がないというのは目立たないのが良いという審判の務めを私にもしていたのかと思えた。

細部にまで目が届かないといけない審判をしていた祖父だが、私は印象に残っている出来事がある。これは野球関連ではないのだが、私は今から約15年前に父を亡くした。父の病気については周囲には事前に詳しくは伝えていなかった。これは父の希望でもあった。そのため、父が亡くなったことは周囲には突然の出来事として知ることになった。祖父もその一人である。母が電話で祖父に父が亡くなったことを伝えた後に母に代わって私が祖父と話した。私は気丈に振る舞わなければならないと思様な感情を抑えていた。私の話を一通り聞いた祖父はこう言った。「思いっきり泣いてもいい、我慢しなくてもいい」祖父は気付いていた。私がありのままでないことを受話器越しで声を聞いてわかったのだろう。私はその時に初めて父が亡くなってから大きな声で泣いた。

これまで紹介したように私は野球の“ファン”である祖父の姿しか、よく知らない。だが、2年前に祖父が亡くなってから祖父をよく知る方々とお会いする機会を頂けた。祖父の選手、審判時代を知る方々と出会って祖父との思い出を語ってもらって“選手”と“審判”の時の祖父を少し知ることができた。その時に過去の試合の一場面を語ると周りが野球観戦をしているファンのように笑顔で大きな声で盛り上がっていた。そこには祖父のような“野球人”が集まっていたと実感できた。きっと祖父は私が産まれていない時代や私がいなかった場所で、ここにいた皆様のように楽しく過ごしていたのだろう。祖父のおかげで私は“野球人”の熱気を感じることができた。これからも日本だけでなく世界にいる全ての“野球人”の熱気がずっと続いてほしい。そして、彼らのように尊敬の気持ちをもって野球を様々な形で楽しみたいと思う。そのような野球人のおかげで「殿堂入りをした」という報告を祖父に出来て私は幸せです。

## 知ってほしいこんな資料(101)

### 岡田彰布氏着用 阪神タイガースユニホーム

2024年8月1日、兵庫県西宮市に位置する阪神甲子園球場（以下、甲子園球場）は開場100周年を迎えました。本号では、プロ野球12球団の中で最古の球場である甲子園球場を本拠地とする阪神タイガースの資料をご紹介します。

大阪野球倶楽部（大阪タイガース）として1935年に創設された阪神タイガースは、2リーグ制となった1950年以降、1985年と2023年に日本シリーズ制覇を達成しました。当館は、阪神タイガースが日本一に輝いた年のユニホーム（ホーム用）を収蔵していますが、いずれも岡田彰布氏が着用していたものです。

1957年大阪府大阪市に生まれた岡田彰布氏は、北陽高校（現・関西大学北陽高等学校）1年生の時に全国高等学校野球選手権大会に出場、進学先の早稲田大学では1978年の東京六大学野球秋季リーグで三冠王を獲得し、チームのリーグ優勝に貢献しました。東京六大学野球での通算最高打率.379、通算最多打点81は、現在も破られていない記録です。1979年にドラフト1位指名を受けて阪神に入団すると、1年目に18本塁打を放ち、セ・リーグ新人王に輝きました。チームが日本一を達成した1985年には、主に5番・二塁手としてスタメン出場し、16年間の現役生活で自身最高となる打率.342、35本塁打、101打点の成績を残しました。同年4月17日対巨人戦において、ランディ・バース（2023年殿堂入り）、掛布雅之に続いて甲子園球場のバックスクリーンに放った本塁打は、まさにこの年の阪神タイガースの強力打線を象徴し、今も語り継がれています。

現役引退後は、2004年に阪神タイガース第30代監督に就任、翌年にリーグ優勝を果たし、指揮官としての手腕を発揮しました（2008年退任、2010～2012年オリックス・バファローズ監督）。そして、2023年シーズンより再び阪神タイガースの監督として指揮を執ると、「A.R.E. (Aim Respect Empower)」をスローガンに掲げ、チームを38年ぶりの日本一に導きました。

岡田氏着用の2点のユニホームをご覧ください。阪神タイガースのホーム用ユニホームは1936年以来縦縞のユニホームを採用しており（注）、1985年と2023年においてもその伝統を踏襲しています。しかしながら、前者が白と黒のシンプルな縦縞であるのに対し、後者は襟元と袖、球団名と背番号にイエローの縁取りが追加されています。阪神タイガースは、2018年よりイエローを継続して取り入れていましたが、2022年シーズンにはストライプの太さと幅が変更され、より洗練されたデザインになりました。なお、この時のモデルチェンジで特筆すべきはデジタル用で、伝統的なグレーの縦縞に初めてイエローが取り入れられました。

来年、阪神タイガースは球団創設90周年を迎えますが、岡田氏の2着のユニホームは、球団の輝かしい歴史とともに、伝統と進化を伝えています。※ホーム用ユニホーム2点は、企画展「阪神甲子園球場 100年のあゆみ」において展示予定です。

学芸員 神津有希



【注】1947～1952年頃までは、物資不足の影響を受けて、縦縞のない白無地のユニホームが採用された。

【参考文献】・網島理友『プロ野球ユニフォーム物語』、ベースボール・マガジン社、2005年

・網島理友のユニフォーム物語 (<https://hanshintigers.jp/data/uniform/> 2024/8/15アクセス)



## こんにちは図書室です



### 「甲子園大運動場建設概要」

2024年8月1日に阪神甲子園球場が開場100周年を迎えました。

今回は「甲子園大運動場建設概要」をご紹介します。この資料は甲子園の開場と同じ日の大正13（1924）年8月1日に阪神電気鉄道株式会社から発行されたもので、大きさはタテ約13cm×ヨコ約18cmの20ページほどの資料です。最初のページには「甲子園大運動場略図」として、球場の平面図と位置略図、スタンドの断面図が描かれています。大運動場という名の通り、野球だけではなくサッカーや陸上競技など他のスポーツも行なうことができるように、中堅は390尺（約120m）あり、左中間右中間が深くなっていることがわかります。（図1）総収容人数は80,000人、観覧座席設備総数が50,000人で「東洋一の大球場」と呼ばれていました。

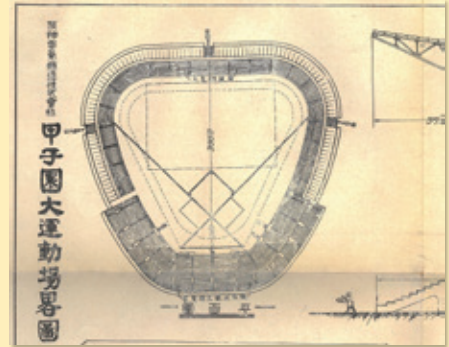


図1「甲子園大運動場略図」

この資料には、工事中の写真や建設工事概要なども記載されています。建設工事概要よると大正13年3月11日に地鎮祭が行われ、同年3月16日に起工し、7月31日に竣工、工事期間は約4か月半だったことがわかります。掲載写真の中の1枚「鉄筋コンクリート造大観覧席全景」（図2）は、見開き2ページにわたって工事中の観覧席の全景を捉えています。フィールドの部分をよくみると、牛がローラーを引いている様子が映っており、建設当時の様子が伺えます。また、その手前ではグラブをもって練習をしているような選手の姿も確認することができます。

甲子園の完成後、開場式が8月1日に行われ、8月13日より第10回全国中等学校優勝野球大会（現 全国高等学校野球選手権大会）が行われました。

この大球場は、当時の野球のプレーにも影響を与えたことが伺える文章が残っています。橋戸信氏（1959年殿堂入り）は、雑誌「アサヒスポーツ」第2巻第19号〔朝日新聞社 大正13年9月15日発行〕で、以下のように書いています。一部を引用します。



図2「鉄筋コンクリート造大観覧席全景」

甲子園グラウンドは、中等学校の野球選手に、新しい戦法を学ぶべく余儀なくさせた。第一は捕手が一塁若しくは三塁をバツクする必要が起つて来た。…（中略）…兎に角新設のグラウンドは、野手の守備範囲を非常に拡大した。一、三塁及び捕手がフワウルを追求する努力も多きを加へた。外野手が強肩であらねばならぬ事も、適切にその必要が感ぜられた。遠くへ飛んだ球に対する各人の守備即ちバツク、アツプの距離、球の発達にも大に研究を積まなければならぬ事となつた。守備が拡大したと云ふは換言すれば野球が難しくなつた事であるから、今後の代表チームは、守備の点に一大改造を加へて出陣しないと、初めから終りまで面喰はねばならぬ事となる。…（以下略）

広い甲子園が出来たことによって守備範囲が広がり、戦法の変化が求められるようになったことが読み取れます。

今回ご紹介した「甲子園大運動場建設概要」は、9月14日～11月24日の間、企画展示室で開催予定の企画展「阪神甲子園球場 100年のあゆみ」にて展示される予定です。雑誌「アサヒスポーツ」は当室で閲覧することができます。ぜひご利用ください。

司書 永沼里菜子

#### ■図書室の開室時間

図書室は事前予約制です。詳しくは、<https://bml.opac.jp/opac/Top> でご確認ください。

## 野球殿堂博物館 トピックス

### プロ野球90年記念展 チームと選手が紡いだ90年

会期 第1期 2月27日(火)～5月6日(月・祝)  
第2期 5月8日(水)～7月2日(火)

2024年、プロ野球は創立90年の節目を迎えました。本展は2期構成で、第1期はチームと監督や関係者に関わる資料71点を、第2期はスター選手と大記録に関わる資料87点を展示(一部ポスター等重複あり)し、昭和・平成・令和と歩み続けるプロ野球90年の歴史を振り返りました。



第1期



第2期

### 2024年野球殿堂入り特別展

会期 7月27日(土)～9月29日(日)

今年新たに野球殿堂入りされた谷繁元信氏、黒田博樹氏、谷村友一氏の野球殿堂入りを記念して、「2024年野球殿堂入り特別展」が開催中です。3氏ゆかりの資料や写真等を展示し、経歴などをご紹介します。



### 企画展「阪神甲子園球場 100年のあゆみ」

会期 9月14日(土)～11月24日(日) 予定

協力 阪神電気鉄道株式会社、株式会社 阪神タイガース、公益財団法人 日本高等学校野球連盟

春夏の高校野球の舞台であり、プロ野球・阪神タイガースの本拠地として数々の名勝負が繰り広げられた阪神甲子園球場は、2024年に開場100周年を迎えました。これを記念して、野球の聖地・甲子園のあゆみをたどる展覧会を開催します。

### 野球の学校2024

毎年恒例の両企画を、好評のため定員を拡大して開催しました。

#### ■2024年の野球規則改正

講師 一般社団法人 日本野球機構  
野球規則委員 友寄正人氏  
日時 5月18日(土) 17:30～18:30



#### ■公式記録員が教える「NPB式スコアの付け方」教室(初級編)

講師 一般社団法人 日本野球機構  
記録部長 山川誠二氏  
日時 7月6日(土) 17:30～19:00



## 野球殿堂博物館 トピックス

### 野球で自由研究!

会期 7月20日(土)～8月25日(日)

主催 公益財団法人 野球殿堂博物館、一般社団法人 日本野球機構

夏休み恒例の小学生の自由研究をサポートする「野球で自由研究!」を開催いたしました。

#### ③の特集展示

特集展示①「しらべてみよう!～野球のれきし～」では常設展示の「野球の歴史」コーナーを自由研究バージョンに変更し、アメリカで生まれた野球が日本に伝わり、発達していく様子をわかりやすく紹介しました。

特集展示②「プロ野球90年をしらべてみよう!」は企画展示室で開催しました。今年90年を迎えたプロ野球の歴史を選手の用具や年表等で子どもたちにわかりやすく紹介しました。

特集展示③「野球用具のひみつ」では、イベントホールを使い、バットやボール、グラブなど身近な用具の歴史を紹介し、体験コーナーでは村上宗隆選手モデルのバットなどを展示しました。

#### ①お悩み相談コーナー

図書室では、今年も、野球で自由研究をしたい小学生をサポートする「お悩み相談コーナー」を設置。調べ方、資料紹介など図書室スタッフがサポートしました。

#### ②ミニミニ実験コーナー

当館スタッフがイベントホールにて、「ボールのひみつ」、「バットのひみつ」、「変化球のひみつ」、「グラブのひみつ」の4つのテーマで、実際にボールやバット、グラブを用いて、ミニ実験やレクチャーを行いました。

#### ⑦7つのイベント

今年も外部の講師をお招きし、7つのイベントを実施しました。

7月 20 日 野球の記録をつけてみよう! [博物館イベントホール]

講師:元セ・リーグ記録部長 石井 重夫 氏

7月 27 日 ボールを遠くへ飛ばすには? [博物館イベントホール]

講師:国立スポーツ科学センター 中島 大貴 氏

7月 27 日 ボールはなぜ曲がる? [博物館イベントホール]

講師:中京大学 スポーツ科学部 桜井 伸二 教授

7月 29 日 夏休み審判学校 [スポドリ!]

講師:NPB 森 健次郎 審判長、笠原 昌春 副審判長、  
栄村 孝康 スーパーバイザー、平林 岳 スーパーバイザー、  
柳田 昌夫 スーパーバイザー、川上 拓斗 審判員、  
笹 真輔 審判員

8月 5 日 「からだ」をきたえる～ケガに強いからだをつくる～ [スポドリ!]

講師:江戸川大学 社会学部 伊藤 彬 講師

8月 8 日 バット製作実演 [博物館イベントホール]

講師:ミズノテクニクス 吉田健一 木バットクラフトマン

8月18・19日 グラブ製作教室 [博物館イベントホール]

講師:ミズノ 秋山裕司リペアクラフトマン、堀内昇一氏



特集展示



お悩み相談コーナー



ミニミニ実験コーナー



「ボールを遠くへ飛ばすには?」



「からだをきたえる」



「バット製作実演」

## 野球殿堂博物館 維持会員 (2024年8月20日現在・順不同・敬称略)

2024年度維持会費をご入金いただき、有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。

### 《法人・プラチナ会員 -10年以上継続-》

株式会社シミズオクト、株式会社テレビ朝日、株式会社横浜スタジアム、麒麟ビール株式会社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社TBSテレビ、株式会社文化放送、株式会社竹中工務店東京本店、株式会社日刊スポーツ新聞社、一般社団法人共同通信社、株式会社ニッポン放送、株式会社博報堂DYメディアパートナーズ、公益財団法人日本野球連盟、株式会社スポーツニッポン新聞社、株式会社ベースボール・マガジン社、株式会社東京ドーム、株式会社東京ドームファシリティーズ、株式会社関電工、株式会社電通、株式会社報知新聞社、公益財団法人全日本軟式野球連盟、ミズノ株式会社、株式会社みずほ銀行、サッポロビール株式会社、サントリー株式会社、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、後楽園事業株式会社、オリンピック興業株式会社、松戸公産株式会社、株式会社ムラヤマ、株式会社毎日新聞社、株式会社読売新聞東京本社、株式会社朝日新聞社、株式会社テレビ東京、株式会社兵左衛門、田村駒株式会社、株式会社レッツ、株式会社エポック社、株式会社東京ドームスポーツ、東京ケーブルネットワーク株式会社、株式会社東京ドームホテル、太平広告株式会社、サンケイスポーツ、株式会社時事通信社

### 《法人・ゴールド会員 -5年以上継続-》

進商事株式会社、株式会社エース企画、株式会社アドサービス、シャープ産業株式会社、株式会社東洋ビルサービス、一般社団法人全日本女子野球連盟、株式会社丸和運輸機関、株式会社コナミデジタルエンタテインメント

### 《法人・一般会員 -5年未満-》

株式会社 BS日本、三井不動産株式会社、ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク、一般社団法人日本ポニーベースボール協会、日本ハム株式会社、株式会社岩手日報社、大正製薬株式会社

### 《個人・プラチナ会員 -10年以上継続-》

ロバート・クレベンズ、中村茂樹、佐山和夫、池井優、永田陽一、川俣茂、明石真和、高井正秀、田口昌裕、山崎眞澄、泉正二郎、景浦隆男、吉田義男、狩野美知夫、林百枝、前藤衛、小川拡、田中進一、齋須将、藤田啓二、松原明、荒田正治、蛭間豊章、大森正樹、古賀裕章、磯部和宏、野上雅之、小尾尚、前田恵、安井敬一、中村真悟、平野禎、灘谷和徳、松田栄、篠原一郎、喜屋武文雄、南部正広、折居教彦、長岡勤、西山克己、伊藤正浩、小碓秋人、井原敦、永瀬郷太郎、井野修、野崎康之、潮田昌憲、久岡公一郎、中本夏樹、高橋和則

### 《個人・ゴールド会員 -5年以上継続-》

鈴木龍一、塚原隆、田名部和裕、内山雅博、津田倫太郎、藤田正身、山崎夏生、遠山泰久、古屋晶久、佐々木敏明、森川圭造、廣瀬信一、井上勝利、瀬戸口久雄、菊田康彦、日下正剛、濱田正行、高城謙造、坂下善紀、加藤肇、林一好、盛田房利、岡佳和、前田茂、村岡由隆、松山昌之、大熊哲夫、鱸正明、井上翔太、根本昭児、庄司正信、樋口亘、土屋隆、岡田洋美、増永武義、西本光春、南雲靖夫、佐藤達之、鈴木国明、溝口明、海北光正、上村純子、大野敏和、岩村直道、佐藤吉昭、三上毅、石井一夫、伊藤綜一郎、中川真、岩瀬敬之、手島康彦

### 《個人・一般会員 -5年未満-》

亀田健、小野祥之、影山一義、筆谷敏正、大川大作、菊池正恒、大野幸男、細井一人、高山樹里、平井正彦、鴉田隆司、岡本邦夫、森田清司、大條晋也、淵上悠人、見米達也、堤哲、福島良一、松井真、小澤正修、北井誠一、嶋津龍太、樋口忠宏、北原義一、鈴木恵美子、高橋祐一、梶忠、三宗大介、土屋健太郎、栗山英樹、増田龍太郎、山岸茂幸、山戸隆誠、吉岡勝彦、竹内啓一、上野勝宏、水野哲樹、森田稔一、尾塚智憲、佐藤晃、松田吉隆、向坂雄典、大島正敬、石黒真奈美、山崎陽斗、工藤三郎、榊原定征、小笠原悠太、栗山智砂子、黒川隆、広澤克実、那須勇元、山脇剛大、小林薫、相澤孝行、櫻井宣久、山田雄一、中尾和樹、棟方史幸、佐藤光保、金子智直、佐々木浩平、中村哲也、有光司馬、吉村一也、太田理、須田誠一、川瀬健人、前田泰孝、四関栄一、頼久貴行

### 《ジュニア会員》

島野雅史、山戸勝伸丞、大山翔陸、五月女拓史、大島玄慈、高久翔央

## 「第9回 野球で自由研究!コンテスト」を開催します!

主催 公益財団法人 野球殿堂博物館 一般社団法人 日本野球機構  
 協力 株式会社 NPBエンタープライズ

今年も、野球をテーマにした小学生の自由研究を対象に、「第9回 野球で自由研究!コンテスト」を開催いたします。昨年の第8回では239作品の応募があり、これまでにのべ1,000人以上の小学生から応募がありました。募集期間は8月1日~10月31日です。来年の3月頃に受賞作品を発表し、受賞作品を中心とした作品展を館内で開催する予定です。応募者全員に参加賞があります。ご応募をお待ちしております。

▼詳しい申込方法等については、ホームページをご覧ください。  
<https://baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/contest/>



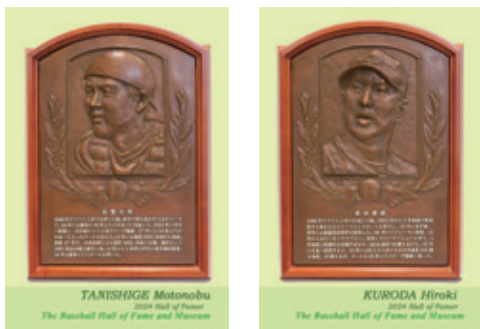
## 博物館からのお知らせ

### ▶博物館公式グッズ/新商品のご案内

#### ●ポストカード

販売価格：各120円(税込)

今年殿堂入りされた、谷繁元信氏、黒田博樹氏のポストカードが新たに加わりました。当館受付及びオンラインショップで販売しておりますので、ぜひお求めください。



#### ●ラバーコースター(赤文字・青文字)

販売価格：各500円(税込)

当館オリジナル商品です。ご家庭用にも、お土産用にもオススメです。ラバー素材ですので、汚れても水洗いが出来、繰り返しお使いいただけます。



#### ●マグカップ(レンガ・ココア)

販売価格：各1,500円(税込)

バットとボールをモチーフにした、当館オリジナルの商品です。重ねられるスタッキングタイプになります。※この商品は、一つ一つ手作業で色を塗布しております。そのため、多少色合いが異なる場合がございます。



▶掲載以外の商品も  
 オンラインショップに  
 あるよ!



### ▶第1回理事会(5月23日 東京ドームホテル)

- 議題 1. 2023年度事業報告・決算報告・監査報告の承認について  
 2. 会議日程等の承認について  
 報告 1. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について  
 2. 職員採用について

### ▶定時評議員会(6月10日オンライン開催)

- 議題 1. 2023年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認について  
 2. 監事選任について  
 3. 定款変更の承認について  
 報告 1. 2024年度事業計画及び収支予算について  
 2. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について  
 3. 職員退職及び採用について

### ▶新任

- 3月1日付にて神津有希が事業部・学芸員室主任として入社しました。  
 4月1日付にて柏駿也が業務管理部に入社しました。  
 6月1日付にて高尾千晶が業務管理部に入社しました。

### ▶退職

- 2月29日付にて業務管理部・浅尾ゆかりが退職しました。  
 3月31日付にて業務管理部・塚本順平が退職しました。

博物館のご案内	場 所	東京ドーム21ゲート右
	開館時間	10:00~17:00(最終入館16:30) ※東京ドームでのプロ野球開催日は、 18:00閉館(最終入館17:30)
	入館料	大人 600円 小・中学生 200円 高・大学生 400円 65歳以上 400円
	休館日	月曜日(祝日、東京ドームでのプロ野球開催日、春・夏休み中は開館)、年末年始(12月29日~1月1日)、2025年1月16日
	※休館日及び開館時間は変更する場合がございますので、事前に当博物館ホームページにてご確認ください。	

●編集後記 小学生対象の「野球で自由研究!」を今年も開催しました。これからも子供達に野球の魅力、楽しさを伝えていきたいと思っております。

野球殿堂博物館 Newsletter 第34巻 第2号

2024年9月3日発行

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館  
 〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
 Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369  
<https://baseball-museum.or.jp/>

